

# 瀬田川ぐるりさんぽ道

Setagawa River Promenade

# 散策路マップ

## 鳥居川水位観測所

明治7年(1874年)、この鳥居川水位観測所の設置とともに琵琶湖の水位観測がはじまり、平成22年(2010年)には観測開始から5万日目を迎えました。今も毎日かかさずに測りつづけています。



## 瀬田の唐橋

日本三古橋の一つで、近江八景「瀬田の夕照(せきしよう)」としても有名。また、「三上山のむかで退治」の伝説では、唐橋を渡ろうとする依藤太(たわらのとうた)が、大蛇に変身した竜宮の姫にこの橋で出会ったといわれています。



瀬田の唐橋  
Seta-no-karahaashi Bridge

## 大津放水路

洪水被害を防ぐために造られた「地下トンネル式放水路」で、大津市南部を流れる3つの川の水を瀬田川へ流しています。地下20~50mのところを造られていて、トンネルの長さは約2.4km、大きさは直径約10mです。



## 石山寺

「源氏物語」の紫式部で有名なお寺で、1250年前に建てられました。また、境内には明治時代に琵琶湖の水害を防ぐため、瀬田川の浚渫工事(しゅんせつ:川底を掘ること)に取りくんだ7代目滋賀県知事の大越享(おおごしとおる)をた たえた記念碑があります。



## 南郷ほたる橋

瀬田川ぐるりさんぽ道では最も新しい平成27年2月に完成した長さ110mの橋。瀬田川の見晴らしも抜群！  
橋の名前は一般応募から選ばれました。



## 宇治発電所石山制水門

ここから瀬田川の水をとって、「宇治発電所」で水力発電に使われています。



## 瀬田川洗堰

昭和36年(1961年)に完成した2代目の洗堰です。水門は全開・全閉ともに電動で約30分で操作できますが、開け閉めの際の巡視や点検などは今でも人の手によって行われています。琵琶湖・淀川流域の人々の生活を守る重要な役目をはたしています。



瀬田川洗堰  
Setagawa Wash Weir

## 西光寺

明治29年(1896年)、琵琶湖のまわりで約8ヶ月の間浸水する水害がおこったとき、鳥居川水位観測所では今までで一番高い水位の+3.76mを観測しました。西光寺にある石標は、この時の水位を今に伝えています。



## 唐橋流心水質自動監視所

滋賀・京都・大阪・兵庫のくらしをささえる水が安心してつかえるように、この「水質自動監視所」で、瀬田川の水質を常に観測しています。



## 雲住寺

「三上山のむかで退治」伝説で、むかでを退治した依藤太(藤原秀郷:ふじわらひでさと)を供養するために、瀬田の唐橋の近くに建てられました。今では、瀬田の唐橋の守り寺になっています。



## 大日山

滋賀県で一番低い山(標高約129m)です。奈良時代の僧侶行基(ぎょうき)は、琵琶湖周辺の水害を防ぐため山を削って瀬田川の流れをよくしようと考えましたが、流れる水の量が増えると下流で洪水がおきやすくなることを恐れて断念しました。その後山に大日如来をまつて「山に手をつけたらりがある」と言い伝えを残しました。



## 旧瀬田川洗堰(南郷洗堰)

明治38年(1905年)に完成した初代の洗堰です。洗堰の操作により琵琶湖から流れる水の量を調節していましたが、人の手作業で角材を上げ下ろして水の流れを調整するしくみなので、全開に丸2日、全閉に丸1日かかっていました。



## 水のみぐみ館 アクア琵琶

琵琶湖の水位管理を行っている瀬田川洗堰の歴史や役割、琵琶湖総合開発事業や天ヶ瀬ダム再開発事業などを、模型やタッチパネルなどを用いて紹介しています。また、大雨が体験できる人気の「雨たいけん室」や「学習映像上映」などもあり、年間約3万人が訪れます。平成29年で開館25周年を迎えました。



- 瀬田川ぐるりさんぽ道
- L1 サイン番号 0.4km サイン番号間の距離
- その他遊歩道

瀬田川ぐるりさんぽ道は、一周すると8.5kmです。

【問合せ先】国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所 調査課  
☎520-2279 大津市黒津4-5-1 ☎077-546-0844(代表)